

教師のキャリア発達に関する教育経営学的考察：ミドル期における「個一組織」間の相互作用に着目して

小杉，進二

<https://hdl.handle.net/2324/7182278>

出版情報：Kyushu University, 2023, 博士（教育学），課程博士
バージョン：
権利関係：



氏 名	小杉 進二			
論 文 名	教師のキャリア発達に関する教育経営学的考察 —ミドル期における「個—組織」間の相互作用に着目して—			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	元兼正浩
	副 査	九州大学	教授	岡 幸江
	副 査	九州大学	教授	田上 哲
	副 査	九州大学	准教授	池田 浩

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、主にミドル期の教師と学校組織における「個—組織」間の相互作用に着目し、個々の教師のキャリア発達プロセスの態様及びそれに影響を与える諸要因の解明を行い、キャリア発達に資する人事施策や学校経営の在り方を考察した教育経営学的研究である。

教師の成長・発達や「ミドル期」を対象とした先行研究は、個か組織のいずれかに力点が置かれ、両者の相互作用を検討するものは皆無であった。本稿では、人事異動及び校内人事の場面において「個—組織」間の適合／不適合が表出しやすいことに着目し、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)並びに複線径路等至性アプローチ(TEA)を用いて、人事をめぐる構造的・文化的特性の析出や教師のキャリア発達に与える影響分析を行った。結果、人事異動に伴う組織内の立ち位置に「周辺型」「スライド型」「コア型」の3つの型を見出し、「周辺型」では、喪失感や疎外感を感じている様相が見出された。また、ミドル期に「管理職」「生涯—実践者」「セカンドキャリア」を選択するプロセスとその規定要因についても、＜積極的選択型＞＜自己分析型＞＜状況依存型＞の3つのパターンを見出し、特に＜自己分析型＞のキャリア選択では、「個—組織」間の不適合を認識した個々の教師が、深い葛藤や逡巡を伴いながら自己の生き方を模索するプロセスを析出した。

そうした喪失感への対応や個と組織の両者を生かすスタッフ・マネジメントについて個別事例の検討を行い、「個—組織」を葛藤関係でなく、互惠的・共進的な関係と捉え、個々の教師の満足度やエンゲージメントと組織全体の教育効果の双方を同時に高めようとするパラダイムシフトの可能性を提示した。全体を通して、個々の教師のキャリア形成が環境との相互作用によって変化していく様を丁寧に描き、従来の予定調和な人事政策や教育経営学研究にも一石を投じる内容となっている。

よって、本論文は博士（教育学）の学位に値するものと認める。